

栃木県社会福祉士会会報



〒320-8508 宇都宮市若草1-10-6 発行 一般社団法人栃木県社会福祉士会
 TEL 028-600-1725 発行責任者 松永千恵子
 FAX 028-600-1730 編集責任者 福原 健治
 ホームページアドレス <http://www.tochigi-csw.org/>

60号

発行日 令和5年8月10日

羅針盤



独立型社会福祉士の活動について

「独立型社会福祉士委員会の歩み」

独立型社会福祉士委員会 委員長 松本 佑司



羅針盤	1
トピック	2
会長の視点	3
今日の一冊	3
福祉士おもしろいだけリレー	4
ニューフェイス紹介	4
授産製品・店舗紹介	5
情報の広場	5
福祉士会通信	6~7
栃木県社会福祉士会入会キャンペーン	8
フードバンクにご協力ください	8
栃木県社会福祉士会 メールマガジン登録のご案内	8
会報についてのご意見募集	8
編集後記	8

令和3年1月に発行された社会福祉士会報 第55号にて【開業型社会福祉士支援プロジェクトチーム（以下、PT）】発足のお知らせとチームメンバーの募集、当時は松本裕行副会長がリーダーとなりPTとして始動しました。

令和3年4月に初回のチーム活動に14名が集合し、徐々に仲間を増やしながら活動内容の要望を聞きながらすすめていきながら、チームの目的を「①定期的な会議を開催して、独立型社会福祉士のネットワーク構築と相互連携、情報交換を行う。②他業種・同業種を講師として招き、委員会会員に限らず社会福祉士として求められる知識や技術の獲得の機会を提供する。③会員が独立型社会福祉士の魅力ややりがい、働き方の選択肢として理解を深め、活躍できる場・機会を情報提供すると共に、栃木県社会福祉士会入会のきっかけとして会員増加に繋げる。④独立型社会福祉士として地域共生社会の実現に向けて活躍できる人材を育成する。」の4つに設定しました。

初年度の定例会は月1回程度の頻度で集会、メンバーがどのような経緯があり独立をしていったのか、どういった留意点や準備が必要かの情報交換を積極的に行い、先駆者であり独立型社会福祉士名簿登録者である独立した先輩3名を定例会にお招きし立上げ当時の経緯や現在の活動などをお聞きできる機会をつくりました。ただ、当時新型コロナウイルス感染症が広がりつつある時期であったので、集合研修は避けオンライン活用しながら学び、交流を深めました。

令和4年度に前任の松本裕行リーダーより筆者にリーダー引き継ぎと同年からはオンラインを中心としつつ、チームメンバーよりリクエストをもらいながらどのような知識を得ていきたいか、学びを深めていくスタイルをとりました。その中で税理士・社会保険労務士・独立型社会福祉士の3名に依頼しそれぞれの話題提供と各専門家の知識を実務に反映させていきました。また、年度途中よりPTから委員会へ移行、その際に名称を【独立型社会福祉士委員会】に変更となりました。

令和5年度は通常の定例会はオンライン・話題提供会は集合開催として委員同士のつながりの再構築と10月、12月、3月に話題提供会を予定しています。

我々は『抱えている課題を個人では解決・改善し難い方々を目の当たりにした時、その方々の生活が守られ・保障され続ける社会のきっかけ』を目指し、そのために制度内外の知識や技術をより高め駆使できるように学び考え歩み続けます。

また、当委員会は目的に掲げている様に独立型委員会のみだけでなく、県協会会員にとっても有益な機会となるよう活動継続してまいりますので、委員以外も参加可能ですので是非ご参加下さい。



え！認知症
 になると
お金の できなくなるの？
 家？
 具体的にこんなことが...
 銀行預貯金の 引出し・解約・相続
 生命保険の 解約・保険金請求
 不動産の 売買・修繕・相続
 介護施設への 入居契約
 認知症により家族や親族が困る前に
 成年後見制度で事前対策をしましょう
 「成年後見制度」についてのご相談は
 一般社団法人 栃木県社会福祉士会
 TEL. 028-623-0810
〒320-8508 栃木県宇都宮市若草1-10-6 本会事務局2F

老後の不安 介護の心配 障がい者支援 生活保護 児童福祉
社会福祉士に
ご相談ください
 お一人お一人に寄り添い、その人に合った
 公的支援制度や福祉サービスをご提案いたします。
 お近くの「社会福祉士」をお探しなら
 一般社団法人 栃木県社会福祉士会
 TEL. 028-600-1725
〒320-8508 栃木県宇都宮市若草1-10-6 本会事務局2F

トピック

「独立型社会福祉士」

栃木県内で活躍されている社会福祉士を紹介します。

社会福祉士事務所にじみるの経験

一般社団法人社会福祉士事務所にじみる 高田 美保

20代の子に将来ひとりになることがあれば社会福祉士事務所に相談してと伝えてあります。独立型社会福祉士は50年後もその時代に合わせて活躍していること請け合いです。

2014年、社会福祉士3名・司法書士1名で非営利型一般社団法人社会福祉士事務所にじみるをスタートしました。現在7名体制で近い親族や頼れる人がいない人などを対象にオーダーメイドで支援を作る伴走型支援北風と太陽を中心に活動しています。90名と契約し約30名を現在支援中、多くが緊急時対応の支援を希望し、転倒した・入所が決まった・要受診などの有事ににじみるスタッフがかけつけ支援しています。

緊急時や有事の支援だけでなく大切にしているのは、何でもない日常の支援です。顔を見ておしゃべりして笑う、一緒にお買い物してステキな喫茶店に行く、時には料理を教わり味の品評会をすることも。(スタッフが食べる分にはにじみる負担です。念のため) 人の生活は日常の何でもない時間の連続です。その何でもない時間に心を寄せて一緒に過ごす人がいることが人生

を豊かにします。「近い親族や頼れる人はいないけれど、にじみると出会って心配なことが減り日常の楽しみや刺激が増え毎日が豊かになった。」と感想をいただいた時は、その方の満面の笑顔を見ながら私たちもとても豊かな気持ちになりました。

人との関わりの中でこそ人が喜びや豊かさを感じることは、今も昔も、未来が予測不能だとしても、変わらないことだと思います。

独立型社会福祉士は、人と人の関係を紡ぎながら人のパワーを高めるいろいろな形の支援を作り出しています。AIが台頭しても、どんな時代になっても、柔軟に人を支援できる専門職として必要とされ続けると確信しています。

社会福祉士事務所にじみるの活動も50年後の独立型社会福祉士につながっていると信じ、正しい答えのない対人支援で何をどうやるかどうすればできるかをみんなで考えて実践し、修正してまた実践することを地道に繰り返し、朗らかに歩いていきたいと思っています。独立型社会福祉士の未来は明るい！

独立型社会福祉事務所設立

株式会社 エイド 代表 財川 美穂



- 開業型社会福祉士支援プロジェクトチーム（現：独立型社会福祉士委員会）が発足後間もなくお声掛けを頂き、委員の皆さまよりたくさんの刺激と心強いサポートのお陰で、私はこの度、2023年7月株式会社 エイドを設立し、「居宅介護支援事業所なづな」を開所いたしました。
- 念願の会社設立が叶いましたのも、ひとえに皆さまのご支援のおかげと心より感謝いたします。
- 事業所は、宇都宮市上戸祭町でパーティ男女共同参画センターの近隣に所在します。
- 主な事業内容は、居宅介護支援事業（ケアマネ）と権利擁護支援（成年後見受任）です。
- これまでは、勤務型として可能な限り、成年後見活動や栃木県社会福祉士会の活動（第三者評価、外部評価等）に携わらせて頂きましたが、これからは、事業運営に励む事は勿論ではございますが、事業所内に留まらず、微力ではございますが、地元宇都宮

市を拠点に可能な限り地域貢献も私の役割として果たしていきたいと思っております。

- 開所いたしました「居宅介護支援事業所なづな」は、経験を重ねたケアマネジャーが集まり設立いたしました。各々の活動で築いてきた関係者の皆さまとの信頼を礎にし、力を合わせることでより良い支援に繋がることを目指しています。
- そして、「ここに相談して良かった」と感じていただけるよう、精一杯お手伝いさせていただきます。
- 弊社は、複合的な課題を抱え生きずらさを抱える方に対して、介護支援専門員・社会福祉士として、「ワンストップで対応できる身近な相談窓口」を目指して、地域の皆さまと共に、安心してその人らしい生活を送ることが出来る社会づくりをしていきたいと思っています。
- 会の皆さま、近くにお越しの際は、お気軽に事務所にお立ち寄り頂きたく存じます。

会長の視点

独立型社会福祉士は 変革期をどう生きていくか。

一般社団法人栃木県社会福祉士会

会長 松永 千恵子



日本の社会福祉は、現在、第3の大きな節目を迎えています。

第1の節目は1961（昭和36）年の国民皆保険皆年金です。昭和36年という戦後の復興期終盤に、国民すべてを対象とする年金すなわち社会保険の普遍化が行われたことは驚きに値すると考えています。私の専門は障害児・者福祉ですが、先天性の障害の場合、「無拠出」で「20歳」を迎えたら障害基礎年金の受給権が発生するのは、この制度によるものであり、この時代においては世界でも希な制度です。

第2の節目は、2000（平成12）年の介護保険制度の開始です。社会福祉基礎構造改革の結実の結果であり、これは説明不要ですね。

第3の節目は、「共生社会の実現に向けて」が2016（平成28）年に施策として発表され、現在の「重層的支援体制整備事業」が始まったことです。これは行政の福祉場面での具体的な関与を減らすことになり、「重層的支援体制整備事業」の中に社会福祉士・精神保健福祉士を組み入れ、相談支援の主役として活躍できるようにしました。

しかし、今回のテーマである独立型社会福祉士は、この「共生社会の実現に向けて」という政策の中でどのように生活の糧を得て生きていくのでしょうか。制度上は独立型社会福祉士への言及はありません。

そのヒントは、現在の「時代」が示唆しています。「少子高齢化」によりまだまだ成年後見制度を利用す

る人は増加が見込まれ、「多死社会」の到来により「死」を迎える人も増加しています。どうやったら自分らしく幸せに死ぬか、が課題です。また、最近は株価が半年で5,000円程度上昇し（この原稿を書いている時点では約33,000円）、流動資産を持っている人たちはこの恩恵に浴しより一層資産を増やしていますが、そうでない人たちは、例えば生活困窮者の増加は止まる兆しはありません。経済格差は拡大し固定化している、と危惧しています。この他にも司法福祉、ダイバーシティといった分野でも福祉の支援が必要とされています。

このような「時代」の産みだしている課題に柔軟に対応できるのが独立型社会福祉士の長所ではないかと考えています。時代の産みだしている「課題」に独立型社会福祉士事務所、NPO法人や民間が真っ先に着手し、作りだしたサービスが安定した段階に入り、国はようやく法律を定め制度化します。私は大学の学生に、「今や社会福祉士は弁護士、司法書士、行政書士のように、「〇〇〇社会福祉士事務所」と看板を出して生きていく時代が始まった。」と話しています。「社会福祉士が社会福祉士の名称を用いて世の中を生きていけるようにしたい。」これは私が以前からことあるごとに述べていることです。その時代の始まり、変革期の中に独立型社会福祉士はいます。独立型社会福祉士の皆さん、活躍を応援しています。

今日の一冊

河合明子・日高愛『私が私として、私らしく生きる、暮らす』

クリエイツかもがわ、2023年6月

栃木県高根沢町にて空き家を活用した知的・精神障がい者対象のグループホーム事業を展開している「アイラブとちぎ」の芸大卒の河合代表と作業療法士の日高副代表の共著によるものです。

数年前に“障がいを持つあなたの家族が『入りたくない』と思えるグループホームが県内にありますか？”と障がい者のきょうだいがいる方にたずねたことがあります。その時初めて耳にしたのが「アイラブとちぎ」です。

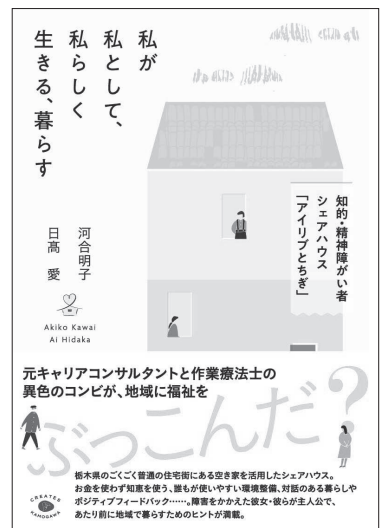
ホームページ・インスタグラム・フェイスブックと地域関係なく情報を得られるSNSや地元のペーパーマガジンなどあらゆる媒体を駆使して公開・発信しているの、その名前は既に知る人ぞ知るものとなっているかと思えます。

本書では“アイラブのグループホームでどんな人がどのような体制で支援していて、どんな障がい者がどのように生活しているのか”など障がい者本人・家族・福祉関係者みんなが知りたいグループホームの様

子やスタッフ・家族の想いが包み隠さず紹介されています。

全国的には増えてつづつある障がい者のグループホーム。しかしまだまだその現状は知られていません。その中の実践事例のひとつに過ぎないかもしれませんが、福祉に関わる人もそうでない大勢の地域の方々にも知っていただける機会となる1冊だと思えます。

粥見 美夏



福祉士 おもいのたけリレー

県内で活躍する社会福祉士が、実践への「おもいのたけ」を語っていくコーナーです。このコーナーは、リレー方式で次の社会福祉士につないで掲載していきます。

掲載内容：①氏名(ふりがな) ②所属 ③趣味 ④実践へのおもいのたけ ⑤次にバトンをつなぎたい方

①渡辺 純一(わたなべじゅんいち)

②一般社団法人南栃木社会福祉士事務所 相談支援事業所 Well-being 主任相談支援専門員



③ももいろクローバーZのファン(通称モノノフ 紫推し)。20年来仲間とヒーローや怪人に変身をして、ショーをしたり各種イベントに出演したりしています。プロレスも好きです。

④実践への思いのたけ

相談支援で利用者さんのドラマチックな人生に触れることで、たくさんのことを学んでいます。その経験が私の成長にもつながり、さらに良い支援ができるのではと考えています。常に利用者さんのニーズを掴んで離さず、誠実に真摯に向き合っているつもりです。

7月から現在の法人に移りました。社会福祉士としての自覚を高く持ち、改めてケアマネジメントの学びを深め追求しながら、「利用者・家族に寄り添い、仲間と共に専門性を発揮できる」(栃木県における理想とする相談支援専門員像) 相談支援専門員そしてソーシャルワーカーになりたいと思っています。

今は亡き野中猛先生から多くのことを学びました。特に「利用者から、もうあなたは必要ないから大丈夫とフラれてお別れしなさい」と言われたことは印象に残っています。

私の支援により利用者さんの自立の力が高まることで、私の存在が必要でなくなるような実践をしていきたいと思っています。

次は、社会福祉士事務所 OWL の関 拓弥さんにリレーします。

若手のエネルギー溢れる新社会福祉士をご紹介します。

ニューフェイス紹介

①氏名(ふりがな) ②所属(事業所名、職種)

③マイブーム(趣味、特技、こだわり等)

④社会福祉士になったきっかけと抱負

①窪 優太(くぼ ゆうた)

②佐野厚生農業協同組合連合会佐野厚生総合病院 医療福祉支援室 社会福祉士



③趣味はテレビドラマやバラエティー番組を観ることです。多くのテレビドラマやバラエティー番組を観て、感動したり、たくさん笑うことで、日々の疲れを癒しています。

④まず私が福祉に興味を持ったのは、高校2年生のときに行った福祉体験学習です。私は、そのときに高齢者施設で体験学習を行い、利用者の方々と関わっていく中で、生活で困っている方々の力になりたいと思いました。そこから福祉の大学に入学し、社会福祉士という仕事があることを知り、身体的な面、精神的な面、社会的な面など、幅広く支援を行うことを学び、私も生活に困難を抱えた多くの方々の支

援がしたいと考えるようになり、社会福祉士として仕事をしようと決めました。

現在は病院で医療ソーシャルワーカーとして働いており、様々な困難を抱えた患者様の支援を行っています。日々の関わりの中で患者様やご家族の思いを傾聴し、信頼関係を構築しながら、思いを否定することなく受けとめられるように支援を行いたいと考えます。まだまだ患者様やご家族を受容することや思いを傾聴する姿勢が足りないと思うので、日々勉強していきたいです。

また、患者様やご家族に信頼されるような支援者になりたいと考えています。そのためには、日々の支援や研修などを通して、知識や技術を磨いていき、患者様やご家族に寄り添い、一緒に課題を解決する方法を考え、支援を行いたいと思います。

授産製品・店舗紹介

このコーナーでは、障害のある方が作る授産製品や販売する店舗をご紹介します。

社会福祉法人 ふるさとジョアン

ふるさとジョアン (就労継続支援 B 型)

住 所 宇都宮市下岡本3710番地15

TEL : 028-673-8613

FAX : 028-680-5265

HP : <https://furusatojoan.jp/>

ふるさとジョアンでは多彩な「食」の仕事を主体とした生産活動に取り組んでいます。主力事業はパン・レストラン部門であり、その他に弁当やかきんとう、クッキー製造、緩やかなペースで作業できる軽作業も取り組んでいます。



パン部門では冷凍生地を使わずに粉から自前で仕上げたこだわりの生地を用いた多彩なパンや衛生管理が難しい生鮮野菜をふんだんに使ったサンドイッチも手掛けています。特に季節の



果物を使ったフルーツサンドは多くの方にご好評いただいております。また本年からは宇都宮駅東のカンセキ楽々市や上河内SA 上下線、JA グリーンインターパーク店との取引を開始するなど生産活動が一層拡大しています。

レストラン部門では2021年に開店した宇都宮市役所16階「レストラン Joan」を運営しています。500円のワンコインながら品質に妥協せず料理をご提供してきた甲斐もあり、1日に約130~150名がご来店する人気店に成長しました。



上記2部門の仕事は大変ながらも人により5~10万円のB型施設としては高い月額工賃を実現できており、今後も高い工賃を支給できるよう高水準の生産活動に取り組む一方、一人ひとりのペースに合わせた質の高い支援に取り組んでまいります。

(総務マネージャー 山形 祥一)

情報の広場

日本社会福祉士会全国大会に参加して

2023年7月1日(土)・2日(日)、大分県別府市で開催された第31回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会に参加させていただきました。梅雨の影響で線状降水帯が発生し大雨の中での開催となり、会場まで来られなかった方もいたようですが、全国から約800人が参集し、後日のオンデマンド配信にも約200の方が申し込まれたようです。



今回の大会テーマは、『現実社会と向き合うソーシャルワーク』～「たがいに・ささえあい・つながり」を目指して～ということで、一日目は、厚生労働省 社会・援護局 総務課 地域福祉課 地域共生社会推進室併任 社会福祉専門官 道念由紀氏の行政講演から始まり、早稲田大学文学学術院文化構想学部 石田光則教授の基調講演、大分県教育委員会 SSW スーパーバイザー後藤みか氏、中津氏社会福祉協議会地域福祉課長 吉田瑞穂氏などによるシンポジウムが行われました。

二日目は、分科会、ポスター発表、記念講演もありましたが、皆様、今回のテーマに基づいて、地域共生

社会に向き合うための社会福祉士としての役割や期待、そして、「たがいに・ささえあい・つながり」のための具体例などを熱く語り合うことが出来ました。

そして、来年は、栃木県での開催となりますので、実行委員でブースを作りチラシを配りPRしてきました。閉会式では大分県社会福祉士会から、当会の松永千恵子会長がバトンを受け取って参りました。責任も重大であります。大分県のように栃木県の社会福祉士が一つになるチャンスでもあります。まさに「互いに支えあい繋がり」成功させたいと思いますので、皆様のご協力をお願いいたします。

(栃木大会実行委員 福原)

第32回 日本社会福祉士会全国大会
社会福祉士学会 栃木大会
2024年6/22(土)・23(日)
会場 ライトキューブ宇都宮
宇都宮駅東口交差点南側
〒321-0909 栃木県宇都宮市岡本5-11-20

これからの地域共生社会を担う
社会福祉士としての挑戦
～いちご一会をつなぎ未来を描いてゆく～

第32回 日本社会福祉士会全国大会
社会福祉士学会 栃木大会
全国の仲間と交流を!
大懇親会のご案内
特別ゲスト U字工事さん 出演決定!
2024年6/22(土) ライトキューブ宇都宮
00:00 開会予定
T321-0909 栃木県宇都宮市岡本5-11-20

栃木県社会福祉士会のブロック会・委員会・PT(プロジェクトチーム)の活動を紹介する掲示板です。

福祉士会通信

社会福祉士の皆さま、日頃の実践の質を高めるため、福祉士同士の輪をつくるため、是非活動に参加しましょう。福祉士以外の方におかれましては、ブロック会等で研修会等を企画しております。是非ご参加ください。

お問い合わせは、栃木県社会福祉士会までお願いします。

総務企画委員会

松本 裕行

第10回定時総会を5月28日の午後、とちぎ福祉プラザにて開催しました。当日の出席正会員19名、定款第19条にもとづく書面評決者数263名により、第1号議案、第2号議案、それぞれ承認をもって可決されました事をお知らせ致します。当日会場までご参集いただきました方々、ありがとうございました。また、来年の全国大会栃木大会の下見を兼ねて大分県へ行ってきました。一年後に備え肅々と準備を始めております。

権利擁護委員会

阿部 和史

色々と呼び名はありましたが新型コロナウイルスも5類へ移行し、感染が収まったとはいいいがたいですが、その対応には大きな変化がありました。われわれ権利擁護委員会でも感染症への対策は行いながらも対面での会議や研修を再開させていただくことができました。リモートでの研修も遠方に住んでいる方とも容易につながる事ができ感染拡大の心配がないというメリットもあることは重々承知の上で、やはり研修をおこなったとき相手の表情をみて反応を感じた時の手ごたえは対面には代えることができないものだと思います。会議においても、生の声での意見などは、説得力が大きく違って来るものだと感じました。権利擁護委員会では、数か月毎に委員会例会開催や虐待対応など企画や委託をうけて多くの研修を行っております。今後も権利擁護委員会一同は少しでも皆様の日々のお仕事や生活のお力になれるよう、精力的に活動していきたいと思えます。

生涯研修センター

富田 裕之

・基礎研修は、Ⅰ（集合研修を年間2回）、Ⅱ（同年間9回）、Ⅲ（同年間10回）開催しております。将来、成年後見人養成研修受講や、認定社会福祉士取得を目指す方にとっては必修となります。昨年度、一昨年度はオンライン（Zoom）中心で開催していましたが、今年度はe-ラーニングと集合研修の併用で開催いたします。今後も、ソーシャルワークの専門職としての基礎を学ぶ研修として、研修内容の充実を図って参ります。
・独自（任意）研修は、栃木県士会独自の研修を企画・運営しています。1回目は「これからのスクールソーシャルワーク」と題して、日本福祉大学 鈴

木庸裕氏をお招きし、5月20日（土）に開催しました。2回目は今年3月に開催した森川すいめい氏によるオープンダイアログの実践編を開催する予定です。詳細が決まり次第ご案内いたします。皆様のご参加お待ちしております。

・実習指導者養成研修は、9月23日・24日に開催予定です。

○調査研究部会

調査研究部会では、県民の福祉の向上に資する調査研究活動を行っています。

今年度は精神保健福祉士協会との合同調査研究委員会にて地域共生社会におけるソーシャルワーカーの役割と課題をテーマに調査活動を行う予定です。

社会福祉評価委員会

鈴木 康之

当委員会は、第三者評価と外部評価の活動をしています。

第三者評価は、福祉サービス事業所の提供するサービスの質に対して評価する事業です。対象事業所は、栃木県内の保育所や障がい者・高齢者の施設などです。外部評価は、認知症対応型グループホームを行う事業所に対して評価する事業です。どちらの評価活動も事業所の欠点を指摘するのではなく、事業所の努力・工夫している点を評価しています。

今年度の第三者評価、外部評価ともに多くの受審を受け、活動を行っていく予定です。コロナウイルスでの活動自粛の影響も少なく、通常での活動が行えるように進めていければと思います。当委員会は委員を募集しております。ご興味のある方は是非、共同事務局にお問い合わせください。

権利擁護センターばあとなあとちぎ 小口 みほ子

権利擁護センターばあとなあとちぎでは、今年度も、成年後見人財育成研修を開催します。

現在96名の成年後見人等候補者名簿登録者がおり、継続受任件数も309件と徐々に増加しております。昨年度の裁判所からの推薦依頼件数は84件と前年度同様となり、後見人等候補者の育成が不可欠です。来年度も開催予定ですので、基礎研修Ⅲを終了された皆さん、旧生涯研修制度の共通研修課程を1回以上修了している皆さん、認定社会福祉士の皆さん、興味のある方は是非受講してください。お待ちしております。

今年度から活動報告書のシステム導入が開始され、紙からデジタルへと大きく変化します。

スマホやPCから提出できるので郵送の手間が省け、担当委員の作業量も軽減されるのではないかと期待しております。

また、各市町社協法人後見運営委員会の委員の派遣や、市町社協法人後見支援員養成講座等の講師の派遣、成年後見制度利用促進体制整備アドバイザー派遣等活動の幅が広がっております。

広報委員会

福原 健治

広報委員会では、ホームページや会報などを通じて、栃木県社会福祉士の活動内容の報告や、研修会・求人などの情報を提供させていただいております。

また、この度は、来年度の全国大会栃木大会をPRする動画を作成して、大分大会で全国の皆様に栃木県の魅力をPRさせていただきました。

近いうちに、当会のホームページにもUPしますので、ぜひご覧ください。

災害福祉委員会

松本 広子

2023年の災害福祉委員会は、新しく1名の委員を迎えて10名で活動しています。

委員各々が勤務先において防災担当であったり、事業所管理者であることから防災・災害対応の命題を常に持って臨んでいます。

7月下旬には、2016年熊本地震における支援に実際に関わった委員から話を聞き、発災時の支援について学ぶ機会を設定しています。

また、「災害時情報集約掲示板」「被災地支援活動協力員名簿」の作成という課題を実践するためDWA Tをはじめとする他機関との連携を検討していきたいと考えています。

福島県避難者住宅確保・移転サポート業務については、長期にわたり支援してきた世帯が、サポートの対象から外れたため、業務委託契約は継続しているものの支援対象世帯が一旦なくなりました。社会福祉士ならではの支援が評価されています。

「きずなボックス」設置により、とちぎボランティアネットワークフードドライブ事業への協力もコンスタントにおこなっています。

県北ブロック

福原 健治

新型コロナも5類に移行して、そろそろ研修会&活動報告会(懇親会)をやろうよという声が出ております。コロナも落ち着き忙しくなっていると思いますが、秋ごろにはやりましょう。コロナ禍での苦労話などを聞かせてください。

独立型社会福祉士委員会

松本 佑司

当独立型社会福祉士委員会には25名の会員が参加しています。

内訳としては既に独立している方、様々な働き方に興味があり独立に関心がある方も参加されている方も居られます。

基本月1回定例会(オンライン)と協会内外部から話題提供を受け学びを深める機会(集合形式)のいずれかを開催しており実務に無理なく参加できる形を取っています。

既に6月に相続相談専門家の方をお招きして相続手続きや相続相談の立場からみた社会福祉士の魅力について等の話をさせていただきました。

今後は10月に「NPO 法人支援センターぽぽらセンター長より(仮)助成金との付き合い方」、12月に「自立援助ホームにこっと」、3月に「居住支援」について話題提供を予定しています。いずれも当委員会委員以外も参加が可能となります。独立型に限らず勤務型の方にとっても実務に活かせる機会となると考えます。

もし、ご興味ある方いらっしゃいましたら

【socialwork.soeshia@gmail.com 松本佑司】までご連絡ください。

スクールソーシャルワーク委員会

船山 克美

SSWでは、今年度初めて日本福祉大学の鈴木庸裕教授をお招きし、12年ぶりに改訂された「生徒指導提要」について、対面での研修会を開催しました。委員会として初の開催であったため、研修委員会のお力をお借りした共同開催という形で実施いたしました。研修の内容上、福祉関係者にはあまりなじみない内容でしたが、たくさんの現役SSWの方々が参加してくださいました。しかしながら、運営委員も初めてのイベントであったため、不手際も多く、反省すべき点は多くあったように思います。これを良い機会にとらえ、益々パワーアップした委員会になるよう精進していきたいと思っています。

今後の予定としましては、会員の皆様から多数のご要望があった懇親会の開催と、会員の資質向上を目指した研修会及び事例検討会の開催を予定しています。また、今年度も9月・10月・11月に開催される県教育委員会主催のSSW養成講座への講師派遣協力も行っています。

すでに会員の皆様、SSWにご興味をお持ちの皆様、SSWでいつか働いてみたいと思っている皆様。いつでも遠慮なくご参加ください。お待ちしております。

社会福祉士会への入会キャンペーン実施中

これからの社会福祉士会の発展のため、若年層の方に向けて、初年度の年会費・入会事務手数料を免除するキャンペーンを、実施しています。この機会に入会をご検討ください。

- ・年会費（通常料金） 15,000円 → 0円
- ・入会事務手数料 2,000円 → 0円

キャンペーン期間：2022年度より3年間（無料となるのは、入会初年度のみです）

～2024年度までとなります～

対象者：栃木県社会福祉士会への入会手続き時、30歳未満の方

フードバンクにご協力ください

新型コロナウイルスの影響で生活に困り、フードバンクを利用せざるを得ない方が急増しております。

栃木県社会福祉士会では「フードドライブ」を開設しております。「フードドライブ」とは、家庭などで食べきれないで余っている食品を持ち寄り、施設、フードバンクなどに提供する活動のことです。とちぎ福祉プラザ3階の共同事務所に「きずな BOX」を用意しておりますので、研修会や会議で福祉プラザにお越しの際には、一品でも結構ですので、ぜひお持ちください。なお、お預かりした食品は、フードバンクうつのみや-「もったいない」から「ありがとう」へ (fbu2189.org) にお届けさせていただきます。また、お持ちい

ただきたい食品例(お米、レトルト食品、缶詰、乾物、お菓子など)、NG食品例(野菜、水)となりますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

また、長引くコロナ禍の影響で、非正規雇用の女性や学生等が、経済的困窮で生理用品を買えない「生理の貧困」が新たな課題に浮上しております。県内のフードバンクでは食品とは別に既に配布が始まっておりますので、とちぎ福祉プラザ内共同事務所のきずなボックス、または、県内各地のフードバンクに直接お持ちいただければと思います。

なお、品物をお持ちするのが難しい場合は、事務所に募金箱も設置しております。

<栃木県社会福祉士会メールマガジン登録のご案内>

広報委員会ではメルマガ【栃木県社会福祉士会「情報交流の場」】で、研修会の案内や職員募集、国や県内等の新しい情報等を配信しております。

ご希望の方は下記アドレスからご登録してください。

なお、申し訳ございませんが、「docomo.ne.jp」「ezweb.ne.jp」「t.vodafone.ne.jp」等のドメインご使用のメールアドレスには配信が出来ない方もいらっしゃるの、出来ればそれ以外のアドレスでの登録をお願いいたします。

info@tochigi-csw.sakura.ne.jp

・件名に『メルマガ登録希望』というタイトルをつけて、本文に「氏名」、「会員番号」、「受信用のメールアドレス」を、メールにて送信してください。

【会報についてのご意見や投稿を募集しております！】

取り上げて欲しい内容や会報の感想、また掲載して欲しい投稿をお寄せください。

ご意見や投稿には、「会報の意見」とタイトルをつけて、事務局までFAX（028-600-1730）でお送りください。差し支えなければ、氏名、連絡先をご記入ください。匿名でも結構です。

皆様の貴重なご意見を会報作りの参考にさせていただきます。

編集後記

蝉しぐれが降り注ぎ、4年ぶりの行動制限のない夏の盛りとなりました。

猛暑が続き、大雨警報がでたり、天候不順となっています。天気予報から、熱中症対策、防災の備えなど今一度確認して、楽しい夏を過ごしましょう。

(折田)

広告

ご利用様が「住み慣れた家で、いつもでも元気に暮らせるように。」
私たち「なかよし」はご利用様の愛着のあるご自宅にお伺いし、日々精進し活動しております！

「暮らしの困りごと」の解決を、ぜひお任せ下さい！



住宅改修の
なかよし



住 所：栃木県佐野市若宮下町2-22
T E L：0283-85-8917
F A X：0283-85-8918
H P：http://www.jukai-nakayoshi.com
代 表：中山 芳寿

※広告掲載について、ご希望・お問い合わせの方は、事務局までご連絡ください。